

第2回 白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会

令和3年11月4日(木) 開催

「白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会」では、高齢者が自宅での療養が必要になっても、認知症になっても、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしが続けられることを目指して、様々な課題の解決に向けた検討を行っています。協議会議事録については、市ホームページにてご覧いただけます。

●● 第2回協議会の主な内容 ●●

- ・ 認知症初期集中支援チームの上半期活動実績報告を行いました。
- ・ 本人ミーティングの報告、今後の実施に向けて意見交換をしました。
- ・ 在宅医療・介護連携推進事業上半期実績、多職種連携情報共有システムの運用報告をしました。

「本人ミーティング」とは

「認知症について本音で語り合える場」

認知症と診断を受けている方や診断は受けていないけれど認知症が心配な方、その家族などが集まり、認知症をテーマに、それぞれがどのように感じ、過ごしているのかを共有する機会を設けました。すると、認知症状の中でも「物忘れ」の症状だけでなく、「意欲の低下」や「情動の変化」等の様々な症状と日々闘っていることや認知症状に対するそれぞれの工夫等、リアルな本人の思いや状況を知ることができました。

特に、認知症初期の段階で、このような認知症の先輩の話が聞ける機会をもつことは、認知症の後輩にとって、安心感にもつながり、今後の自分の生活に大いに役立てることができそうですので、今後も開催を予定しています。今年度の本人ミーティングの様子については、本会議資料2に記載しておりますので、ご覧ください。

課題別ワーキングの報告

「在宅医療・救急医療連携ワーキング」

救急活動の現場では、救急医療情報キットの情報が活用される割合が年々増えていきます。その一方で、救急医療情報シートの情報が更新されていない等、課題もあがっています。ワーキングでは、シート情報の更新も含めた救急医療情報キットの周知啓発対策と救急医療情報シートの項目の見直しについて検討しています。

「市民啓発ワーキング」

在宅医療や介護サービスの内容、在宅看取りについて市民に分かりやすく伝えるための資料づくりに取り組んでいます。



トピックス ICTを活用した「多職種連携情報共有システム」の運用開始から半年経過。

在宅医療を受ける患者さんに関わる多職種の皆さんが効率的に情報共有を図るツールとして導入して半年が過ぎました。市外事業所も含めて、約40機関（クリニック・病院・薬局・訪問看護・居宅介護支援事業所・消防署等）に登録していただきました。今後も拡充に向けて取り組んでいきます。